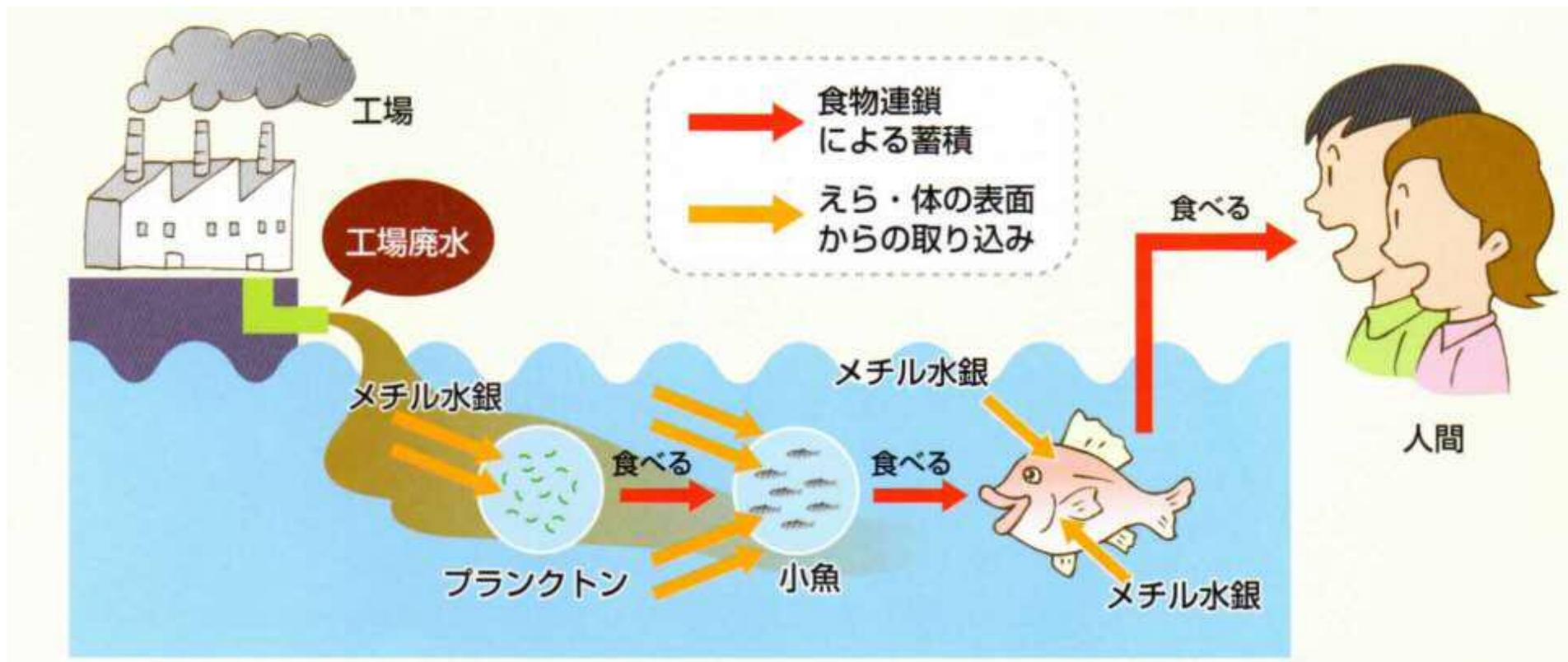


水俣病における 医学の問題点



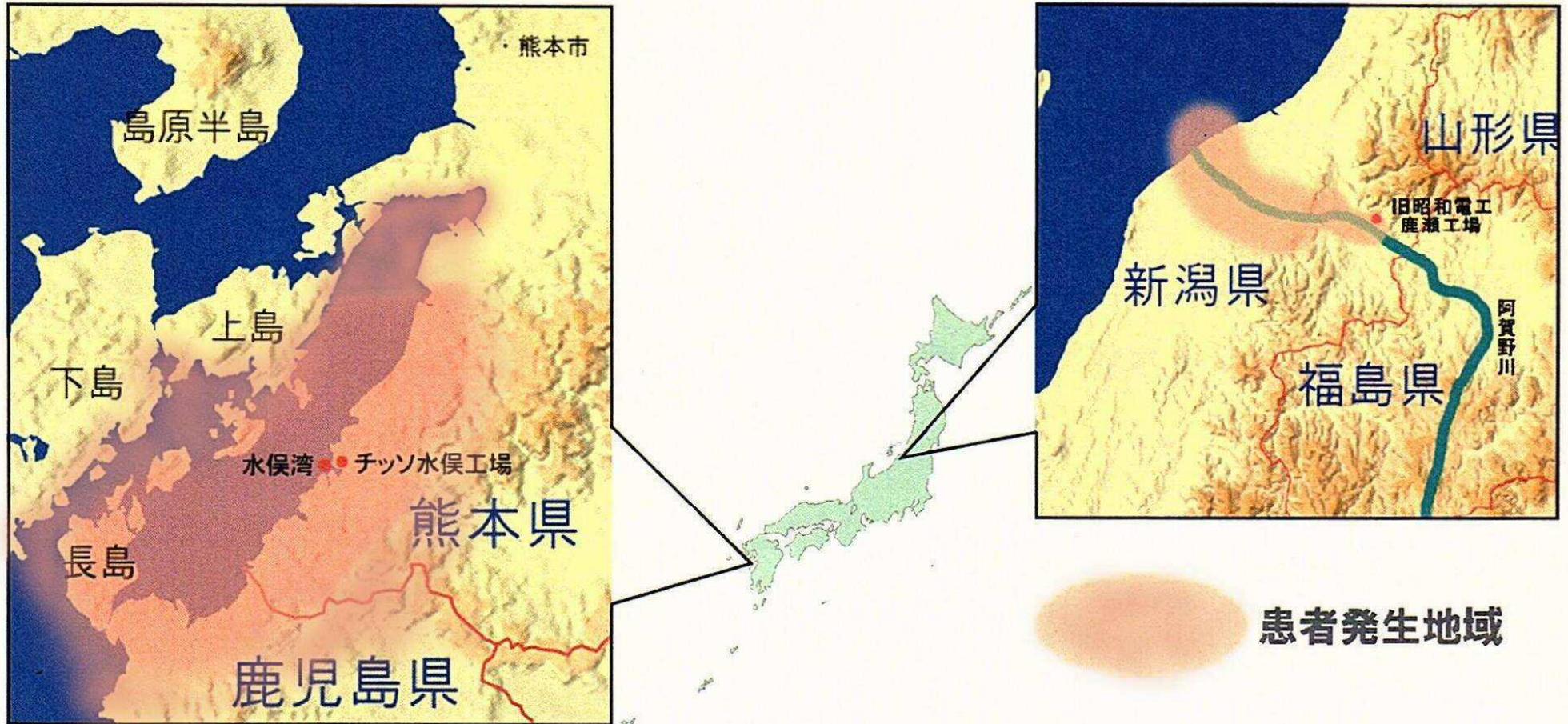
水俣病の原因物質・メチル水銀が 人体に入るまで



熊本県「知ってなっとく！微量水銀」

1956年発見

1965年発見



衆議院調査局環境調査室「水俣病問題の概要」(2008年) 1ページを改変

1932年（昭和7年）から
メチル水銀は海に流されていた



1956年 水俣病の発見

→ 当初は原因不明、原因確定後も排水は持続、健康調査の実施なし

第1図 強迫失笑（第1例）



熊本大学第一内科
徳臣晴比古医師（1966）

- ・水俣病志願者がいるため、ハンター・ラッセル症候群を満たすもの（重症者）のみを水俣病とした。
- ・1960年で水俣病は終息した。

環境汚染による健康障害の解明に必要なこと

- 曝露（汚染）と健康障害についての調査
- 曝露（汚染）と健康障害の関係
- 軽症から重症まで、病態の広がり
- 地域的な広がり
- 経時的な推移をみる

水俣病の症状

ハンター・ラッセル症候群

こむらがえり



手足のしびれ
(感覚障害)



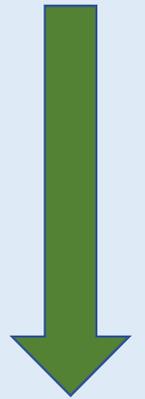
ふらつき
(運動失調)



周りが見えにくい
(視野狭窄)

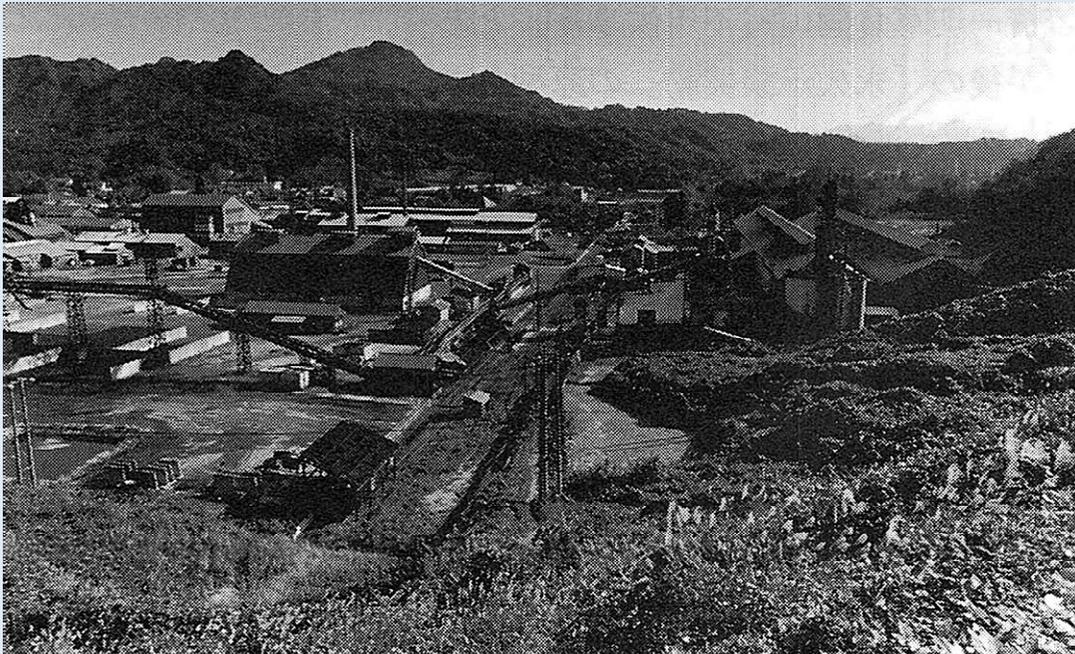


曝露小



曝露大

1965年 新潟水俣病の発見（椿忠雄） →疫学調査の実施



昭和電工鹿瀬工場アセトアルデヒド・プラント跡地
新潟水俣病共闘会議「阿賀の流れに」11ページ

椿忠雄教授

診断基準の枠をはめることを避け、
共通の症状をもつものを選び、
これと並行して診断要項を設定する

感覚障害だけの水俣病が存在しうる

1970年代前半の激変→昭和52年判断条件

- 新潟水俣病での疫学調査（1965年～）
- 環境庁発足・政府の公害病認定（1968年）
- 新潟水俣病裁判判決で原告勝訴（1971年）
- 熊大2次研究班・神経精神科の疫学研究（1971～73年）

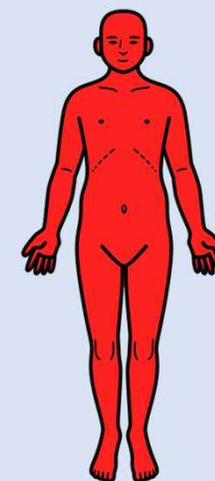
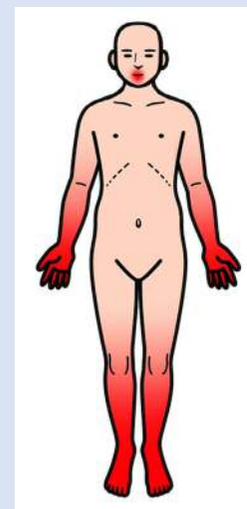
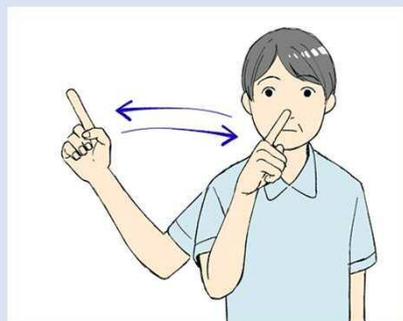


認定申請患者の急増！！

申請患者
急増

-
- 1973年 第3水俣病問題→水銀パニック→環境庁の巻き返し
 - 椿教授の神経進歩誌論文（1974） IPCSクライテリア1「水銀」（1976）
 - 1977年 昭和52年判断条件 症状の組み合わせが必要

医師団の住民検診



汚染地域に多発する感覚障害

汚染地区有症率

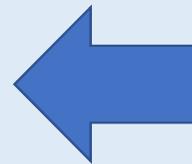
藤野 (桂島 1977)	36.7%
原田 (袋 1983)	52.8%
原田 (湯ノ口 1983)	30.6%

特措法等救済率(～2012)

水俣市	42.1%
津奈木町	51.6%
芦北町	73.0%

対照 (非汚染) 地区有症率

藤野 (1977)	0%
二宮 (1995)	0.7%
徳臣 (1976)	1.1%
熊本 (1993)	0.2%
納 (1993)	1.0%

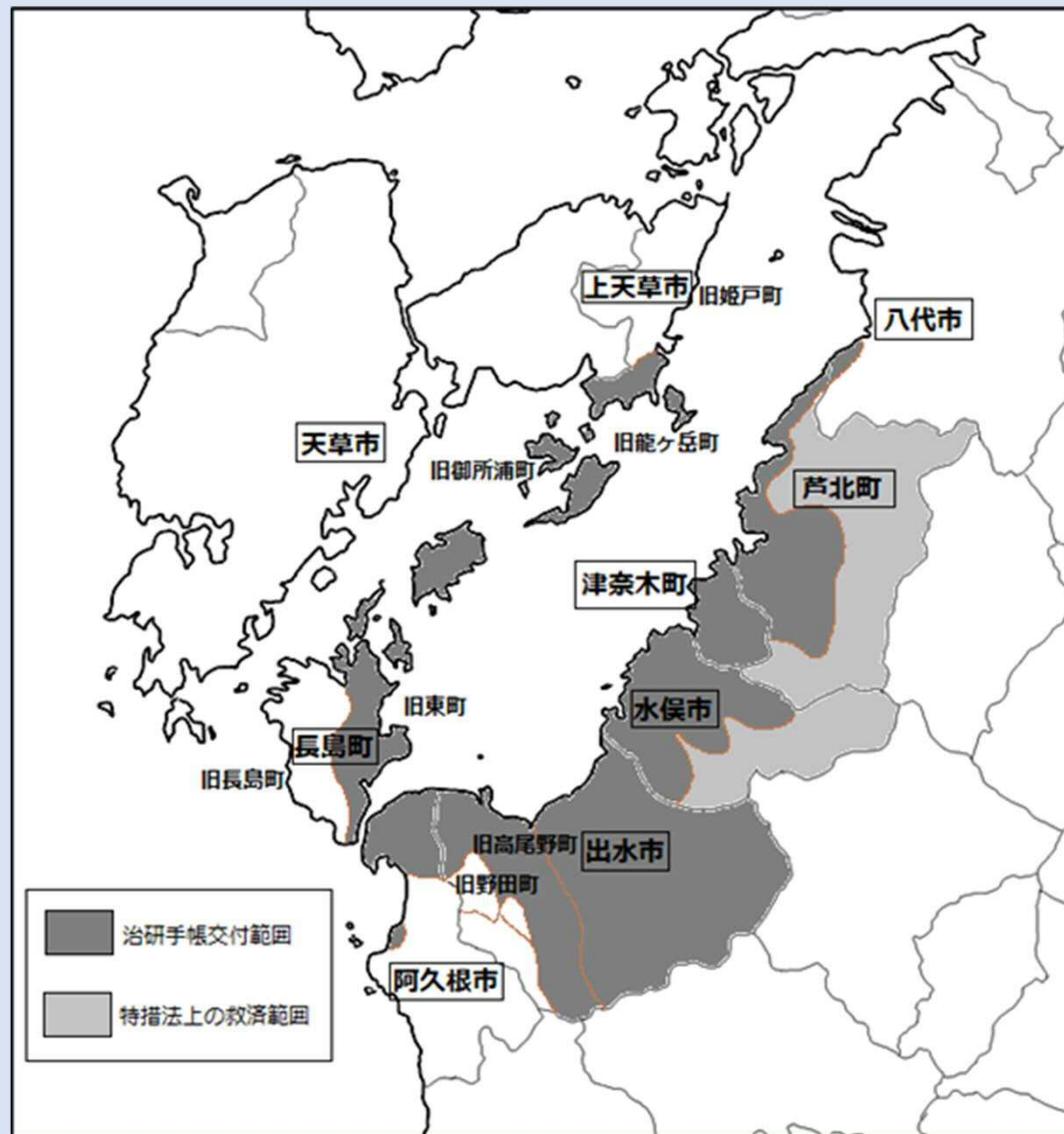


特措法認定者の対40歳以上人口比
= 手足の感覚障害のある人

水俣病認定・救済状況と共通診断書（2022年4月末時点）

	熊本県	鹿児島県	合計
水俣病認定（～2022年4月）	1,791	493	2,284
政治解決：医療手帳（1995年12月～1996年7月）	8,834	2,706	11,540
ノーモア・ミナマタ訴訟和解	（県別は非公表）		2,794
特措法：被害者手帳（2010年5月～2012年7月）	37,613	15,543	53,156
合計	48,238	18,742	69,774

2009～12年の
「特措法」による
水俣病救済範囲、
救済者の年齢が、
根拠なく
限定されていた



水俣病裁判——現在進行中3つの地裁判決

- 大阪地裁…原告128名全員を水俣病と認める。共通診断書とその診断を認める。
- 熊本地裁…一部患者を水俣病と認めるが、時効として救済を認めず。共通診断書の意義を一部認めるが、具体的適応を否定。
- 新潟地裁…過半数の患者を水俣病と認めるが、共通診断書を否定。時効は認めず。国の責任を認めず。

環境省の照会に対する日本神経学会理事会の回答

2018年5月10日、日本神経学会理事会は、環境省の意見照会に対して、「メチル水銀中毒症に係わる神経学的知見に関する意見照会に対する回答」を行った。

日本神経学会理事会の回答は以下の3点

1. 神経系疾患(=水俣病)の診断は神経学に習熟した神経内科専門医による神経学的診察が必要である
2. 中枢神経疾患において症状の変動性はほとんどみられない
3. メチル水銀曝露終了後、老化により症状が顕在化するのはいずれもせいぜい数ヶ月から数年である

本日のテーマ

メチル水銀曝露による健康障害の 研究・調査と診断方法

